



タートル

うわー！すごいなー！！
同じ種類の木がきれいに並んで生えているよ。
いってみようっと。



タートル

森の中は昼間なのに真っ暗だな．．．
オバケとかでできそう．．．

「ガサガサ」

わーっ！

ニコル

そんなにあわてて、どうしたんだい？



タートル

すごく暗い森にいてね、こわくなっちゃったんだ。

ニコル

それは、この近くのスギやヒノキ林のことかな。
家や家具に使うために人が植林した森だよ。
人工林とよばれているんだよ。

タートル

そうなんだ。それにしても、同じ種類の木がきゅうくつ
そうにはえてるね。
あまり元気な木にみえないなあ。

ニコル

そう、よく気がついたね。
人が作っている森ではね、木が成長して混み合っ
て暗くなってきたら、光をたくさん吸収すること
ができるようにしないと、ちゃんと育たなくて
いい森が作れないんだよ。





ニコル

でも、そういう作業をするにはお金がかかるから、ここ30年はほったらかしの森が多いんだ。

タットル

なんで、ほったらかしなの？

ニコル

それはね、この30年くらいは外国から安い木材が輸入されるようになって、日本の木材が売れなくなってしまったものだから森の手入れをするお金がもったいないという森の持ち主が増えてしまったからだよ。

タットル

外国産の木材を買った方が、日本の木を育てて使うよりずーっと安いんだね。



ニコル

何も手入れしてやらないから、ヒョロヒョロに成長していて、きゅうくつで暗い不健康な森になっているんだ。ほら、あの森は地面に光が全く届いてないだろう。だから地面に草も生えていない。そうすると、大雨が降ったとき表面の土が流されちゃうんだ。ヒドイ時には、土砂くずれがおきてしまうんだよ。

タットル

ぼくが今まで見てきた国では、木が切られて少なくなっているのが問題だったのに、切らないと不健康になる森があるなんてしらなかったよ。

ニコル

この森をみてごらん。とても明るくて、健康な森になっているんだよ。

タットル

うん、さっきの森とは全然ちがって、明るくて、とても気持ちいいな。たくさんの虫の姿や鳥の声も聞こえてくるね。



ニコル

そうだね、この森も昔はササやツルにおおわれて不健康なもりだったんだよ。でも、いい森にしたいくてねササを刈ったり、枯れた木を切ったりして作ったんだよ。手入れする時に気をつけてきたのは、元々あった色々な植物をバランスよく再生させること。そうすると自然にたくさんの生き物たちも集まってくるんだよ。



タートル

へえーたとえば、どんな生き物に会えるの？

ニコル

ここ「アファンの森」には、
ツキノワグマも遊びにくるんだよ。

タートル

えっ？クマがいるの？だいじょうぶ？
おそわれたりしない？

ニコル

だいじょうぶ。
ツキノワグマは、とてもおく病なクマなんだ。

タートル

知らなかった。
クマはとてもコワイ動物だと思ってたよ。

ニコル

クマをやしなう事ができる森というのはとても豊かな
森なんだよ。
たくさんの種類の植物や虫がいる証拠なんだ。



タートル

あれ～？あのオジサン木を切ってるよ。
おーじーさーん！

松木さん

なんだい？

タートル

なんでその木を切っちゃうの？

松木さん

なんでだと思う～？

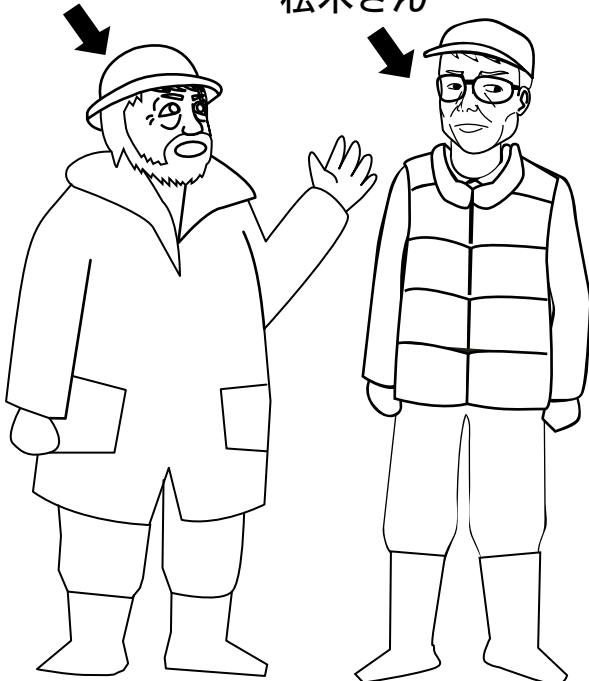
タートル

う～ん？？？

松木さん

この木はオニグルミといって、成長すると周りのある他の
種類の木を枯らしてしまう性質があるから、適度に切
らないといけないんだ。

C・Wニコルさん 松木さん





ニコル

切った木だってムダにしてないよ。ホダギにしてシイタケやナメコを育てて活用しているんだよ。

タートル

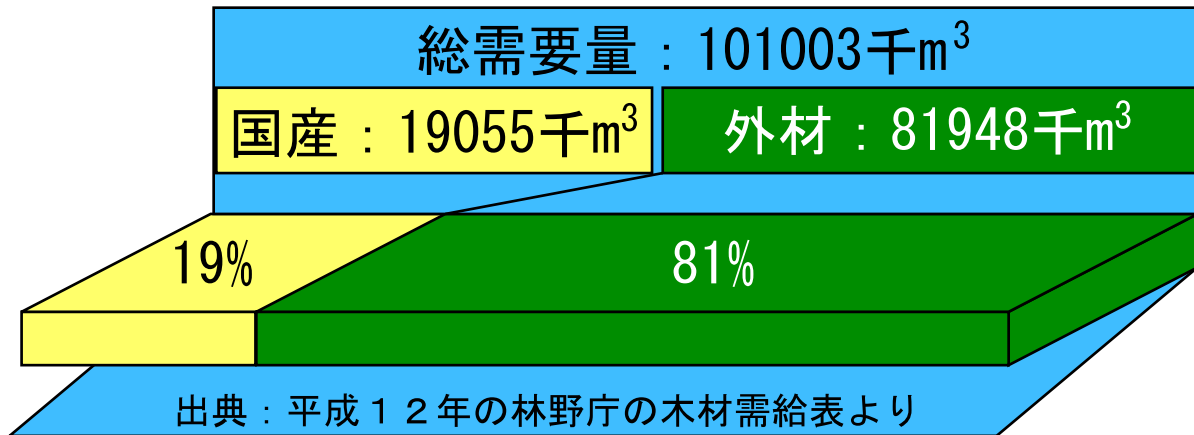
森の再生って、ただ放っておくだけじゃダメなんだね。ここみたいに明るくて生き物がたくさんいる森が増えて、明るい森を作る仲間達がどんどん増えていくといいね。

タートル

今度来る時には、日本中に「アファンの森」のような健康な森が増えているといいなあ。

○ 国産材と外国産材の割合 ○

日本で利用される木材のうち、約19%が国産、約81%が外国から輸入された木材です。主な用途は建築材や紙製品です。木材の輸入量の多さはアメリカ、中国に続いて世界第3位ですが、国産の木材を用いた割合は低いのです。日本の森林（スギ、ヒノキ林）を健全に維持する為には、国産の木材の利用を増やすことが必要なのです。

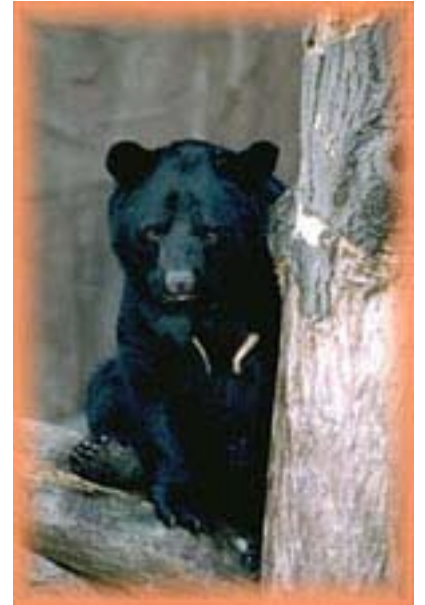


○ アファンの森 ○

日本の森を、ふたたび野生動物のすめる豊かな森に戻したい。そんな思いで、C. W. ニコルさんは17年前、長野県の荒廃した里山を少しずつ買い、森の再生活動をはじめました。そして、様々な生きものが暮らせる森となりつつある今、この森での再生活動が、日本中の森がよみがえるための一歩となることを願って、このアファンの森を「財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団」の森として財団に寄付しました。アファンという名前は、ニコルさんの生まれ故郷の英国ウェールズにある森で、すばらしい再生活動がおこなわれていた「アファン・ゴールド森林公園」にちなんで名づけたものです。

○ ツキノワグマ と ヒグマ ○

日本にはツキノワグマとヒグマの2種類が生息しています。
北海道に生息するのが、ヒグマ。
本州に生息するのが、ツキノワグマです。
ヒグマもツキノワグマも意外なことに植物が主食です。
ヒグマの方が少し肉食でシカとサケを食べます。
ツキノワグマは木の実を拾ったり、木に登って食べたりします。
つまり人を食べるために襲ったりしませんが、おく病なので
自分を守る為に攻撃にでることがあります。



○ オニグルミについて ○

リスたちが好んで食べます。
春にはリスが土の下に貯蔵して食べ忘れられたものが
芽を出します。オニグルミは日本の温帯地域に分布する
木で、湿潤なよく肥えた土壌を好みます。
果実は胡桃菓子（くるみがし）として親しまれ、木材は
ウォルナットと呼ばれて、家具・室内用材として使われ
ています。オニグルミは根からアレロパシーと呼ばれる
化学物質を発散させ、他の多くの植物の生育をじゃまし
ます。このため、オニグルミの樹下では他の木や植物が
生えないようになってしまいます。



○ ホダギってなあに？ ○

ホダギとはシイタケやナメコ、ヒラタケなどのキノコの菌を植え付ける木材です。
50cm～1mくらいの長さによって使います。



リコーの活動

○アファンの森とリコーについて

リコーは、生態多様性や生態系の保全が大切なことと考え、社会貢献を行っています。

「生物多様性や生態系の保全」というものは、さまざまな種類の生き物がそれぞれ、バランスを取りながら生きている場所をそのまま守りましょうというものです。

その場所の一つに「アファンの森」<http://www.afanomori.com/>があります。「アファンの森」は、長野県信濃町にある約3万坪の広葉樹林で、「C.W.ニコル・アファンの森財団」が管理しています。「アファンの森」は荒れ果てた二次林（人が一度手を入れた森林）を、作家でナチュラリストのC.W.ニコル氏が17年かけて少しずつ購入し、復元してきたものです。その結果今では、さまざまな動物や植物が生息する「天然林」に近づいてきました。

○アファンの森「親子森林体験プログラム」

<http://www.ricoh.co.jp/ecology/history/2002/65.html>

リコーは、C.W.ニコル・アファンの森財団の発足メンバーです。

財団と協力して2002年から、「リコー親子森林体験プログラム」をはじめました。

アファンの森に住む様々な生き物はバランスを保ちながら生きています。この体験プログラムは、荒れ果てた森が人の手によって再生する様子や様々な生き物のバランスを実際に見てもらって、「森は生きている」ことに気づいてもらうことを目的にしています。

プログラムでは、まず水を抜いた後の池に入って泥だらけになりながら、魚（コイ、フナ）などを捕まえて、数や重さを調べました。



夜はキャンプファイヤーをしながら、鯉こく鍋やバーベキューを楽しみました。また、夜の森を探検するナイトハイクも行いました。子ども達は大喜びでした。

リコーの活動



翌日は、ツリークライミングという、ロープだけを使って木を傷めないで登る方法を体験し、鳥になった気分で高い位置から森の様子を見てみました。はじめは戸惑っていた子も、すぐに森に溶けこんでいました。



参加者からは、
「子供達も動物・植物と自然に楽しみながら親しむことができ、
貴重な体験をしたと思います」
「大人も童心に帰り、子供の心にも大きなものを残したよい機会でした」
といった感想をもらいました。



今後もこの活動を続けていって、多くの親子に森の大切さ、
素晴らしさを知ってもらいたいと思います。

